

# 町史

とっておきの話

265

福島県中世史研究会

柳内 壽彦

## 同時代史料が語る只見の歴史④

### 元服理髪状―松本伊豆守と築取弥七郎―

#### 元服理髪状とは

元服理髪状は、元服（男子の成人式）にあたって理髪（前髪をおろす）の親をつとめたことを示す文書です。

#### 松本実輔元服理髪状

元服  
吉日良辰

藤原実通

松本伊豆守

源 実輔

右理髪之状如件

天正十年壬午卯月二十三日

天正十年（一五八二年）四月二十三日、蘆名盛隆の家臣松本伊豆守源実輔（松本実輔）が烏帽子親（元服親）になって築取弥七郎の元服がおこなわれ、弥七郎は実輔の「実」の一字を賜り、藤原実通と名乗りました。

元服の烏帽子親は主君がなるのが一般的です。この元服は築取弥七郎が名字からみて伊北郷築

取を本拠とする武士とみられることから、この時期の伊北郷は蘆名氏の支配下にあり、松本実輔はこの地を統治する代官などであったと考えられます。

#### その後の松本伊豆守と築取弥七郎

築取弥七郎が元服をした七年後、伊達政宗が天正十七年（一五八九年）六月五日に磐梯山麓の摺上原の戦いで蘆名義広を破ります。このとき政宗は二三歳、義広は一七歳と伝えて

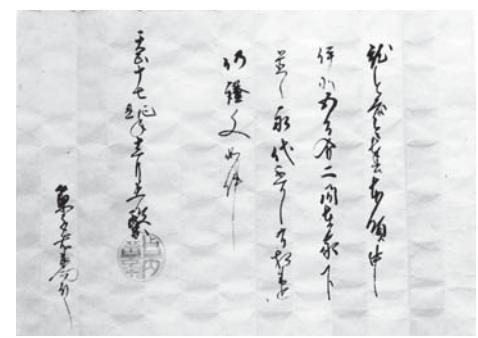
います。この戦いは松本伊豆守と築取弥七郎の運命を大きく変えるのです。

新潟県阿賀町の旧三川村に平等寺薬師堂（国指定重要文化財）があります。この堂内には永禄十年（二五六七年）を最古に三二

の墨書による落書が確認されています。そのなかに天正十七年六月二十六日に松本伊豆守の家来の「あかい又六」が書いたものがあります。この松本伊豆守は元服の年からわずか七年後のことであり伊豆守の官途が一致することから弥七郎の烏帽子親と同一人物と考えられます。落書によると伊豆守は政宗に蘆名氏が敗れたあと服属せず牢人となり、会津を逃れ国境を越えて越後に入り、この堂で休息をとったようです。しかし、伊豆守あ

かい又六ら主従一行は越後の上杉景勝に仕えた様子はなく、その後の消息は不明です。

政宗は七月に入ると大沼郡の川口・横田、伊北郷の布沢・築取などへ鉄砲隊を派遣し攻撃を開始します。八月四日の布沢の戦いでは三〇〇余人を斬り捨てたことが、五日には横田の城が明け渡されたことが報告されています。七月・八月の戦いで山内氏は降伏しないものの大勢は決したようで、九月以降は散発



▲伊達政宗知行安堵朱印状（町指定文化財）

平等寺薬師堂の落書を述べましたが、実は梁取の成法寺観音堂内にも墨書による落書があるのです。昨年、只見町教育委員会と福島県立博物館は赤外線カメラを使い調査しました。調査結果では只見の歴史に新たな史料をもたらすと思います。

結果では只見の歴史に新たな史料をもたらすと思います。



▲平等寺薬師堂（新潟県阿賀町）